実用新案公報

実用新案出顧公告 1日240-15221 公告 昭40.6.2 (全2頁)

ころがり軸受

奥 願 昭 38-56709

出 順 日 昭 38.7.29

考 案 者 桐谷博

大阪市南区的谷西之町 2 光洋精工

株式会社内

出 願 人 光洋精工株式会社

大阪市生野区中川町4の60

代表者 油田岭

代 理 人 弁理士 五步一敬治

図面の簡単な説明

第1図は本案実施例の縦断面図、第2図は変形 実施例の縦断面図である。

考案の詳細な説明

本案は油醤滑によって運転されるころがり軸受の構造に関する。即ち油潤滑のころがり軸受はプランマーブロックその他ほとんどのものが油面を保たせるために上記ブロック等に油止め板を用したり或いはハウジングを設けたりして油をオーバーフローさせている。然し乍らこのようなオーバーブロー装置をころがり軸受の外部即ちハウジング等に形成することは該装置の占めるスペースが大きくなるばかりでなくオーバーフローさせる油の量も多くなつて不経済である。

本案は上記のような欠点を改良しオーパーフローさせる油を最も経済的に且つ有効に使用し得るようにしたものである。

実施例について説明すれば外輪1の阿端部に内径を転動体2のP・C・Dとほぼ等しく構成した 堰板3.3を設けてなるものである。

即ち第1図の実施例において堰板3,3は環状板の外間を折り曲げで断面L字状の環体により形成

し外輪1の内径阿端部に嵌着しその円周に向う録の内径を転動体2のP・C・Dとはぼ等しく構成する。図において4は内輪、5は保持器を示している。

又第2図の実施例はスヘリカルローラーペアリングに本案を実施した場合を示し堰板3,3は第1図の実施例と同様に環状板の外周を折り曲げて断面し字状の環体として外輪1の内径両端部に嵌着しその内径を転動体2のP・C・Dとほぼ等しくなるように構成してある。この場合スヘリカルローラーペアリング個有の自動調心性を損なわないように堰板3,3の取付けを考慮する必要がある。この図においても4は内輪5は保持器を示す。

本案は上述のような構造よりなり図において外輪1の上方に油孔を設けて連続給油を行なうとした場合は内輪4の回転と共に転動体2を潤滑して外輪1の下側に溜り堰3,3の内径端より外部にオーバーフローすることになりこの堰3,3の内径を転動体2のP・C・Dとほぼ等しくしてあるために転動体2はこの油の中にその半部を浸され上方に転動を続ける。

このようにして転動体は上方より油を受けそして下方にて油に浸されるためにスムースに転動し更に外輪1の下側に溜る油の量は比較的少なく上方より給油を続ければその給油量が少なくても溜られる油を常に清浄に保つことができ更に堰板を外輪に固着して設けたために軸受のためのハウジング等の容積を署るしく小さくすることが可能となると共に軸受の組込みも容易である等多大の効果を具備する。

実用新家登録請求の範囲

外輪1の両端部に内径を転動体2のP・C・D とほぼ等しく構成した堰板3,3を設けてなるころ がり軸受。



